

# 平成19年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第3号（5月後半～6月前半）

平成19年5月16日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや多い
		赤かび病	やや少ない
		うどんこ病	平年並
	イネ	ヒメトビウンカ	やや少ない
		ニカメイチュウ	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	多い
果樹	ナシ	イネミズゾウムシ	平年並
		黒斑病	平年並
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	やや多い
野菜	カキ	ハダニ類	やや多い
	タマネギ	かきタアザミマ	平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	少ない
		べと病	少ない
		腐敗病・軟腐病	やや多い

中国地方1か月予報（5月12日～6月11日・広島地方気象台5月11日発表）  
向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間は平年並みの見込みです。

#### A. 普通作物

##### 1) ムギ

##### (1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率9.7%（平年4.7%）、  
発病莖率6.2%（平年1.4%）で平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、  
発生を抑制する要因とはならない。

##### (2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①ムギの出穂は平年に比べて早い。

②巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率1.6%（平年8.3%）、  
発病莖率0.02%（平年0.69%）で平年に比べてやや少ない。

③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

##### (3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率3.2%（平年5.1%）、  
発病莖率1.8%（平年1.8%）で平年並みである。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。
- ② 4月の耕起前越冬量調査では発生量は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生に助長的である。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生時期 やや早い  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。
- ② 前年の第2世代成虫発生量は平年比7%で、越冬量は少ないと考えられる。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。
- ② 4月の耕起前越冬量調査では発生量は平年に比べて多い。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、5月第1半旬で平年並みである。
- ② 5月上旬の巡回調査(4月下旬植)では、発生圃場率14.3%、食害株率1.7% 寄生成虫数0.01頭/株で発生量は少ない。
- ③ 前年の新成虫の誘殺数は平年並み(平年比76%)で、本年の越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容  
発生地方 県下「二十世紀」栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月10日の巡回調査(安来地区)では発病を確認していない。
- ② 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容  
発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬、一部の圃場で幼果での発病が散見されたが、5月10日の巡回調査(安来地区)では、発病が広がっていない。
- ② 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①初飛来日は4月2日で平年並みである。
- ②前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ③フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数はやや多い。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①初飛来日は4月1日で平年並みである。
- ②フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数はやや多い。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

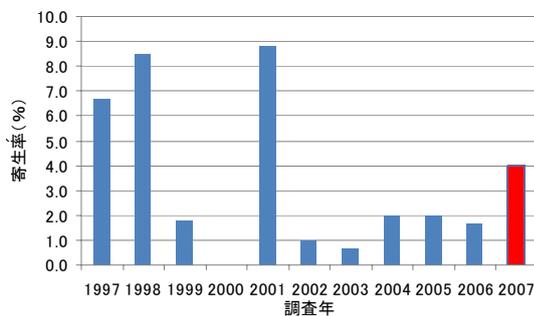
(6) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ②4月下旬の巡回調査（安来市）では寄生花そう率は4.0%（平年3.3%）とやや高い。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



ナシの類花叢におけるハダニ類の寄生率の推移

3) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ②5月6日の巡回調査では巻葉被害が認められた。
- ③向こう1か月の気象は気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

## C. 野菜

### 1) タマネギ

#### (1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率18.5%（平成58.2%）、  
発病株率0.4%（平成14.0%）と平成に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平成並みと予想されており、  
発生を助長する要因とはならない。

#### (2) ベと病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率11.1%（平成38.7%）、  
発病株率0.06%（平成5.68%）と平成に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率51.9%（平成17.1%）、  
発病株率0.46%（平成0.31%）で平成に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は、本病の発生を抑制する要因とはならない。

### 【参考となる事項】

#### ※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

### 農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

### 島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp